



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第53巻第
1号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第53巻第1号). 泌尿器科紀要 2007, 53(1): 86-86

ISSUE DATE:

2007-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/71317>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円（税込）、英文は6,825円（税込）、超過頁は1頁につき7,350円（税込）、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円（税込）、6頁以上は1頁毎に10,500円（税込）を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 著作権：当誌に掲載する著作物の複写、複製、転載、翻訳、データベースへのとりこみ及び送信等の権利は、泌尿器科紀要刊行会に帰属するものとする。
9. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

最近「ホワイトカラーエグゼンプション」という耳慣れない言葉をよく耳にする。どうもホワイトカラーの労働者にも裁量労働制を導入しようということのようで、産業界から導入要望があり厚生労働省が積極的に進めているようである。

この制度では、１）専門性が高く、２）労働時間では評価が難しい職種で、３）一定の年収以上の労働者がエグゼンプション（ホワイトカラー適応免除）となるようだ。まさに一般勤務医がこれにあたるのではないか。まさかとは思うが、医療費抑制政策で赤字のかさむ病院では、勤務医の残業代までカット出来るようにするのはと勘ぐりたくもなる。現在、大学では教官は裁量労働制の適応となっており、教授だけでなく助教授、講師まで、いかなる理由でも残業代は出ない。他学部と違って時間の自由がきかない大学病院医師にとって、裁量労働制は「超過労働の認容制度」そのものである。この制度が勤務医全般に及ぶことを危惧している。

皆さんは今年の初詣で何を第一にお願いされましたか、私は毎年家族の健康と決まっています。たぶん日本国民の半分以上が健康や病気からの回復をお願いしているのではと思います。国民が一番大切に考えている健康や医療の問題に、国がもっと十分な配慮を示してくれることを期待して本年第1号の編集後記を終えたいと思います。

(小川 修)